

## 2 社 会

### ( 1 ) 調査結果の概要

	受検者数(人)	平均通過率(%)	通過設問率が70%以上の児童(%)
社 会	1877	67.0	45.8

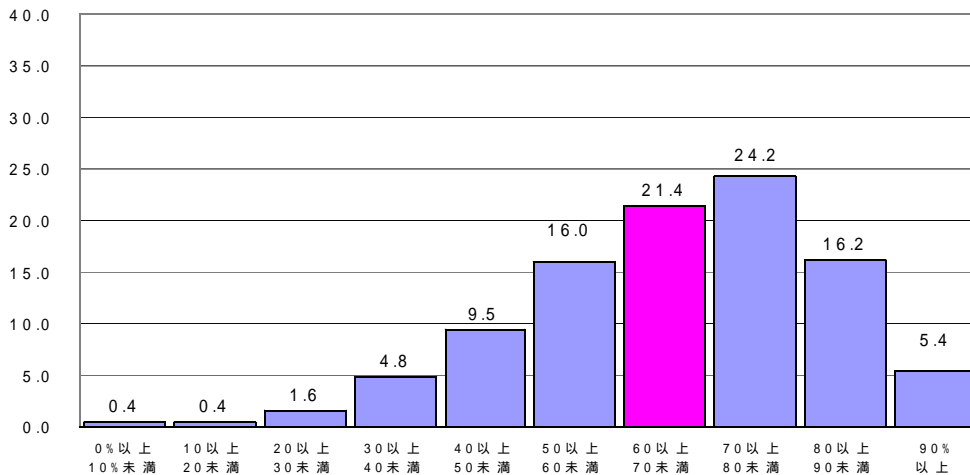
#### おおむね良好

- ・ 地図帳を使って場所を探すこと。
- ・ 我が国の産業の様子と、それに従事する人々の営みについて理解すること。
- ・ 森林を大切にすることなどの社会的事象の意味について考え、表現すること。

#### 不十分又はやや不十分

- ・ 資料(グラフ)の意味を的確に読み取ること。
- ・ 基本的な地名等の地図上の位置について理解すること。

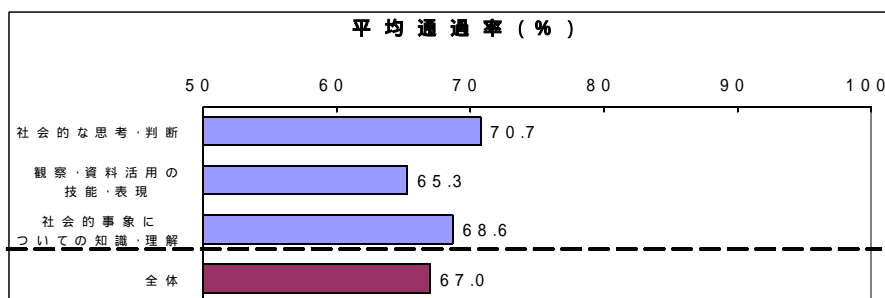
通過設問率の度数割合(%)



社会科では平均通過率が67.0%である。平均通過率の含まれる度数域の一つ上の度数域が最高値になっており、全体に右寄りの山の形であることから、総じて基礎的、基本的な内容についての理解はおおむね良好と考えられる。

### ( 2 ) 学力観点別状況の分析・考察・指導のポイント

( 関心・意欲・態度については、学習実態調査結果を基に分析等を行う。 )



#### 「社会的事象への関心・意欲・態度」

学習実態調査において、我が国の産業への関心に関する設問の肯定群の割合が81.0%、勉強が生活の中で役に立つことに関する設問の肯定群の割合が74.1%であることなどから、我が国の産業やそれに従事する人々の営みへの関心、社会科の学習への意欲・態度の実現状況はおおむね良好であると考えられる。

一方、地図の利用に関する設問の肯定群の割合が44.7%である点は課題である。社会科の授業では常に地図帳を用意し、地図を用いて位置を確認したり、グラフや統計資料から社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわり、人間の働きなどを調べたりして、地図や資料への親しみがもてるようにすることが大切である。また、知識の提示を中心とした講義式の授業に偏らないようにするとともに、児童の生活に根ざした教材の開発により社会的事象の面白さが味わえるようにしたり、問題解決的な学習の工夫により主体的な学び方を身に付けさせたりすることが大切である。

#### 「社会的な思考・判断」

森林資源保護の理由を文章で記述する問題の通過率が91.1%、これからの水産業について文章で記述する問題の通過率が68.5%であることなどから、森林等の環境保全や我が国の産業の課題に関する社会的な思考・判断の実現状況はおおむね良好であると考えられる。

一方、これらの文章記述式問題では、無回答が3.6%と9.2%である点は課題である。我が国の産業について、現状を理解する学習だけでなく、自分の生活にとってどんな意味があるのかを考えたり、自分に何ができるか、これからどうしていくべきかなどについて意見を出し合ったりする学習活動を工夫して、切実感をもてるようにすることが大切である。

#### 「観察・資料活用の技能・表現」

地図帳を使って地名を検索する問題の通過率が81.9%と73.7%、米作りに関するグラフを読み取り関連の文章を選択する問題の通過率が68.8%であることなどから、資料活用の技能の実現状況はおおむね良好であると考えられる。

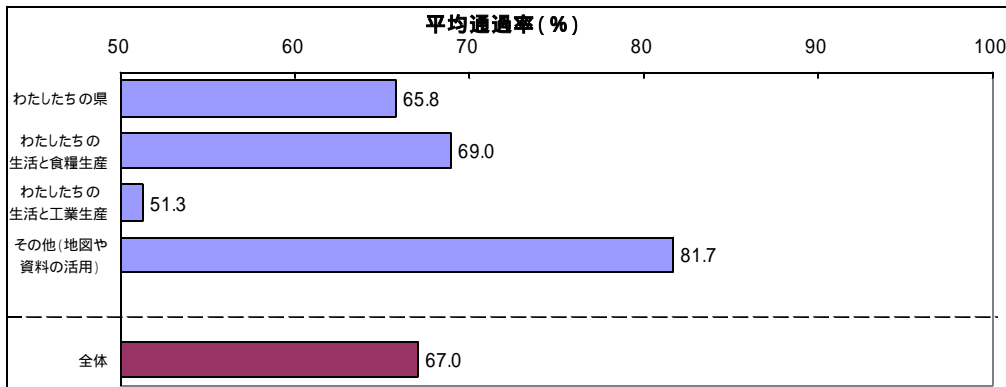
一方、工場規模別にみた我が国の工業の現状をグラフから読み取る問題の通過率が38.0%である点は課題である。タイトルや各項目の表すもの、単位の確認等、グラフの読み取り方の指導を徹底するとともに、読み取った事実のもつ意味について考える学習活動の充実が大切である。

#### 「社会的事象についての知識・理解」

農薬や化学肥料を減らしている理由を選ぶ問題の通過率が80.9%、我が国の工業地帯が海に面している理由を選ぶ問題の通過率が76.8%であることなどから、我が国の産業についての知識・理解の実現状況はおおむね良好であると考えられる。

一方、岡山県の地図から3大河川の名称や岡山空港の位置を選ぶ問題の通過率がそれぞれ44.4%、56.1%である点などは課題である。地図帳や県の地図、立体地図などを参照して、白地図に主な地形や産業、空港、都市などを書き表しながら、県全体の特徴をとらえ、自分たちの住んでいる県の地形などの特色を考えたり、クイズ形式で主な地名を探したりするなど、学習活動を工夫することが大切である。

### (3) 学習領域別状況の分析・考察・指導のポイント



#### 「わたしたちの県」

地図上の海の名稱を選ぶ問題の通過率が89.0%であることなどから、岡山県の主な地形、県庁所在地、人口分布についての知識・理解の状況はおおむね良好であると考えられる。

一方、3大河川の地図上の位置の理解はやや不十分である。地図帳や県の地図、立体地図などを参照して、白地図に主な地形や空港などを書き表しながら、県全体の特徴をとらえ、自分たちの住んでいる県の地形などの特色を考えることができるようにすることが大切である。

#### 「わたしたちの生活と食料生産」

米作りの条件として「平野」を選ぶ問題の通過率が82.9%であることなどから、我が国の米作りや水産業についての理解の状況はおおむね良好であると考えられる。

一方、米作りの条件を選ぶ問題において、誤答である選択肢4の反応率が50.6%であった点は課題である。米作りに適した地形条件や気候条件、社会的な条件について調べて考える学習活動を工夫することが大切である。

#### 「わたしたちの生活と工業生産」

大きな工業地帯が海に面している理由を選ぶ問題の通過率が76.8%であることなどから、我が国の工業立地に関する理解の状況はおおむね良好であると考えられる。

一方、主な工業地帯(地域)の地図上の位置の認識や、工場規模別にみた我が国の工業の現状を表した資料を読み取る技能、それを基に考える力はやや不十分である。地図帳の分布図や統計資料などを日常的に活用して、主な工業地帯(地域)の分布や立地を調べる学習活動を工夫することが大切である。

#### 「その他(地図帳や資料の活用)」

地図帳を使って地名を検索する問題の通過率が81.9%と73.7%、森林資源保護の理由を文章で記述する問題の通過率が91.1%であることなどから、地図帳を活用する技能や、森林等の環境保全に関する思考・判断はおおむね良好であると考えられる。

地図や写真、絵、統計、グラフなどの資料を活用して社会的事象について調べ、その事象のもつ意味や自分の生活とのかかわりを具体的に考えることを通して、自分なりの考えをもつことができるようにすることが大切である。

(4) 設問別の分析・考察・指導のポイント

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
1	(1)	地図帳の活用				81.9	<p>(1)地図帳の索引を使って場所を検索することができる。                      (2)地図帳を使って県名を読み取ることができる。                      (1)の通過率が8割を超えていることから、大半の児童が地図帳の索引を開いてその記号を読み取る技能を習得しているといえる。また、(2)の通過率も7割を超えており、(1)ほどではないにしても、大半の児童が索引の記号から該当ページを開き地名を読み取る技能を習得しているといえる。                      無回答は(1)が6.6%、(2)が5.8%であった。地図帳の索引を開いてその記号を読み取る技能を習得していないと考えられる児童や、該当のページは分かっても富士山の地図上の位置がはっきり分らないと考えられる児童、二つの県名を読み取ることができないと考えられる児童が少数ながら存在する。                      社会科の授業には地図帳を用意させて、日常の指導の中で新しい地名が出てきたら開いて確認する習慣を付け、地図帳から必要な情報を読み取る技能を身に付けるようにすることが大切である。</p>
	(2)					73.7	
2	(1)	我が国の農業(米作り)				82.9	<p>米作りに適した条件を理解することができる。                      選択肢1の通過率が8割を超えていることから、大半の児童が米作りに適した条件として「平野」を認識できているといえる。正答である選択肢3の反応率44.0%より誤答である選択肢4の反応率50.6%の方が多いという逆転現象がみられる。米作りに適した条件に関する理解が不十分な児童が存在する。また、文章の読み取りが不十分で、4の文中の「夏の日照時間」や「夏の気温」「～に適している」などのキーワードにつられて選択した児童が多いと推察される。                      米作りに適した地形条件や気候条件、社会的な条件について調べて考える学習活動等の充実に加え、文章を読み取る力の育成に努めることが大切である。</p>
	(2)					44.0	
						68.8	<p>資料から米作りの工夫の様子を読み取り、関連する文章を選択することができる。                      消費者が米に求めることや、安全な米作りのための工夫や努力について理解することができる。                      の通過率が8割を超えていることから、米作りに従事している人々は、安全性の確保という消費者のニーズに合った生産方法を取っていることを、大半の児童が理解できているといえる。                      の誤答である選択肢「さとし」の反応率は18.2%であった。これは、グラフの単位が「時間」であることの認識が不十分なまま、グラフが右下がりに見えることから、「さとし」の文中の「使う量を少なくしている」という語句につられて選択した児童がいたためと推察される。</p>
						80.9	<p>算数の学習との関連を図りながら、タイトルや横軸・縦軸の表すもの、変化の様子の確認等、グラフの読み取り方の指導を徹底するとともに、グラフから分かることを発表し合うなど、グラフの示す事実と社会的事象とを関連付けて考える学習活動等を工夫することが大切である。</p>

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	③	我が国の水産業				68.5	<p>これからの水産業において、養殖場やえさをやるロボットなどがなぜ大切なのか説明することができる。</p> <p>通過率は7割を若干下回っているが、文章記述式であることを考えると、妥当な結果といえる。</p> <p>無回答は9.2%であった。絵図が示されており、児童にとってイメージを描きやすい問題と考えられる割にはやや高い。同じ文章記述形式である⑦の無回答は3.6%であったが、それと比べてもやや高い。一部の児童にとっては、「これからの我が国の～」という問いに対して切実感がもてなかったり、それに答えることの負担感が大きく、あきらめてしまうケースがあったと推察される。また、「魚しょう」や「人工海底」に関する知識が不十分なため、答え方に自信がもてない児童も若干数いたと推察される。社会認識の深い児童とそうでない児童の二極化がうかがわれる。</p> <p>漁業技術の改善に努めるとともに、水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業などに取り組んでいる事例などを取り上げるにより、水産業に従事している人々の、消費者の需要に応え、新鮮で良質なものを生産し出荷するための様々な工夫や努力について具体的に理解させることが大切である。また、我が国の水産業などの社会的事象について、現状を理解する学習だけでなく、自分に何ができるかやこれからどうしていくべきかなど、自分の生活とのかかわりを考えたり、意見を出し合ったりする学習活動等を工夫することが大切である。</p>
	④	我が国の工業の現状				38.0	<p>資料から、工場規模別にみた我が国の工業の現状を読み取ることができる。</p> <p>本調査問題中、最も難易度の高い問題と考えられる。通過率が4割を下回っている要因の一つは、二つのデータを関連付けて考え、その上で答えを導き出すという認知作業を、これまでの授業やペーパーテスト等であまり経験したことがない児童がいたことではないかと考えられる。また、選択肢1と4の文中に「工場一つあたり」「働く人一人あたり」という表現について、算数の「単位量当たり」の学習が未習であったため、その意味が理解できなかった児童がいたためと思われる。</p> <p>タイトルや各項目の表すもの、単位の確認等、グラフの読み取り方の指導を徹底するとともに、読み取った事実のもつ意味について考える学習活動の充実が大切である。</p>
	⑤	(1) 我が国の工業立地				40.6	<p>(1)地図中に示された工業地帯の名称を答えることができる。</p> <p>(2)大きな工業地帯が海に面している理由を理解することができる。</p> <p>(2)の通過率から、大半の児童が、我が国の工業地帯(地域)の主要な立地条件として「海運」を認識できているといえる。</p> <p>(1)の通過率が4割程度である要因の一つは、主な工業地帯(地域)名は知識として身に付いていても、地図上の位置が理解できていない児童がいたことと推察される。「観察・資料活用」の実現状況の不十分な児童の存在が考えられる。</p> <p>また、岡山県の児童にとってなじみ深い県外地域は、隣接県大阪 東京 北海道又は沖縄といった順である場合が多く、「中京工業地帯」は国土認識の上でのエア・ポケットのような存在とも考えられる。</p> <p>地図帳の分布図や統計資料等を積極的に活用し、主な工業地域の位置を指で押さえたり印を付けたりして、分布や立地などを調べる学習活動等を工夫することが大切である。</p>
						76.8	

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント					
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解							
6	(1)	ア				77.2	<p>(1)岡山県の地形の概要を答えることができる。</p> <p>(2) 岡山県の県庁所在地の名称を答えることができる。</p> <p>(2) 岡山県の地図から人口の特色を読み取ることができる。</p> <p>(3)岡山空港の位置を答えることができる。</p> <p>(1)のアとオの通過率から、大半の児童が岡山県北部の「中国山地」と南部の「瀬戸内海」について地図上の位置も含めて理解できているといえる。</p> <p>(1)のイ・ウ・エの通過率が5割前後であることから、岡山県の3大河川の地図上の位置について理解できていない児童が少なくないといえる。ただし、各問の反応率をみると、「高梁川」「旭川」「吉井川」のいずれかを選択した割合は、イが92.2% (50.7% + 18.7% + 22.8%), ウが93.2% (22.6% + 48.2% + 22.4%), エが89.3% (18.2% + 26.7% + 44.4%)であり、約9割の児童が3大河川の名称を知識として身に付けていると考えられる。</p> <p>(2)の通過率から、大半の児童が、岡山県の県庁所在地の名称を知っており、岡山県の地図から人口の特色を読み取る力を身に付けているといえる。ただし、の無回答が13.0%であることから、「所在地」の意味が分からなかった児童が若干数いたと推察される。</p> <p>(3)の通過率が6割を下回っていることから、「岡山空港」の地図上の位置が理解できていない児童が、少数ではあるが存在するといえる。</p> <p>地図帳や県の地図、立体地図などを参照して、白地図に主な地形や産業、空港、都市などを書き表しながら、県全体の特徴をとらえ、自分たちの住んでいる県の地形などの特色を考えたり、クイズ形式で主な地名を探したりする学習活動等を工夫することが大切である。</p>					
		イ				50.7						
		ウ				48.2						
		エ				44.4						
		オ				89.0						
	(2)					75.1						
						85.9						
		(3)						56.1				
	7					資料問題					91.1	<p>資料から、森林を大切にしなければならない理由を考え、説明することができる。</p> <p>森林資源に関する内容は第5学年社会の最後に位置付けられており、この調査の実施時期には未習事項であるにもかかわらず通過率は9割を超えている。その背景として、総合的な学習の時間において環境学習を行ったり、環境問題に関するニュースを見聞きしたりするなど、児童の日常生活において森林資源や環境問題に関する情報に接する機会が多く意識が高いことが考えられる。</p> <p>写真や地図、絵、統計、グラフなどの資料を活用して社会的事象について調べ、その事象のもつ意味や自分の生活とのかかわりを具体的に考えることを通して、自分なりの考えをもつことができるようにすることが大切である。</p>